

作物統計調査

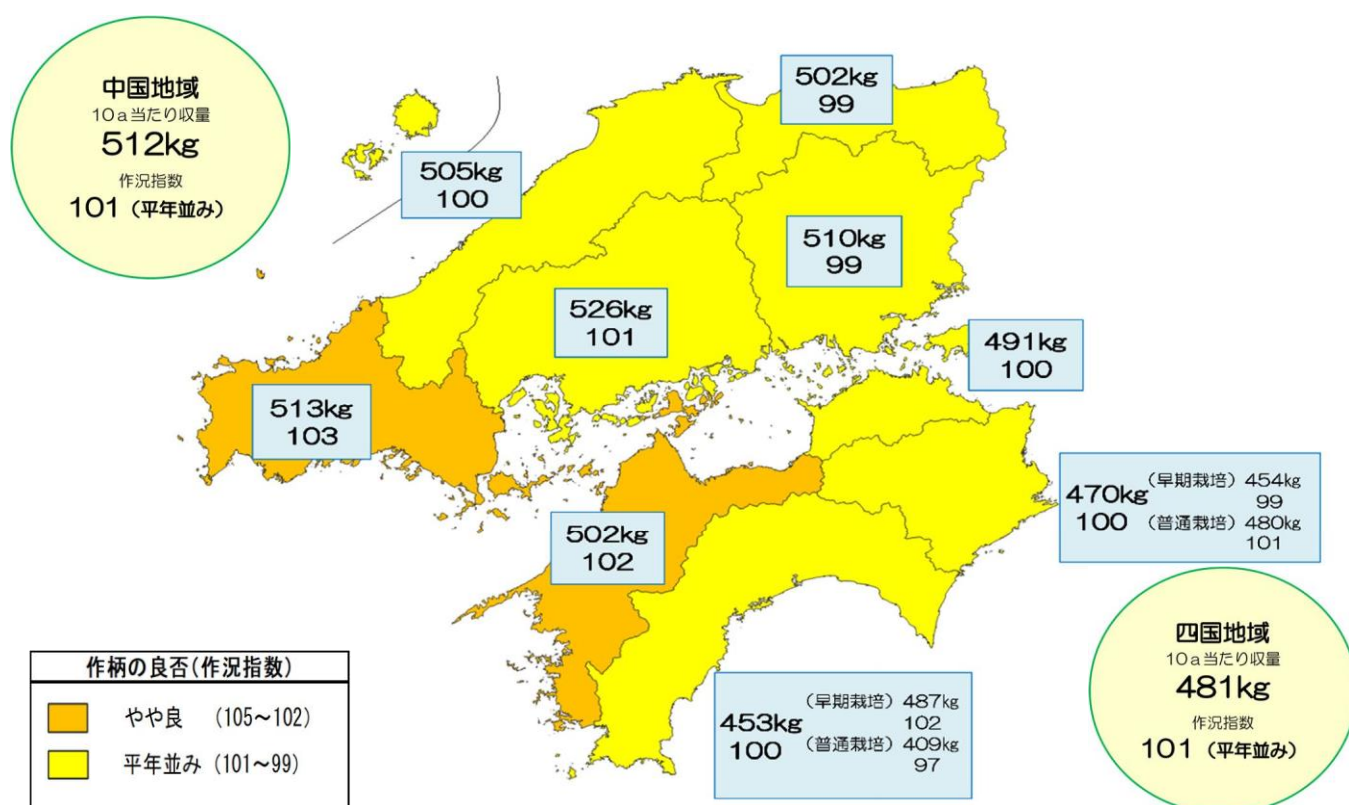
令和6年産水稻の作付面積及び収穫量（中国地域・四国地域）

－ 10 a 当たり収量は中国地域512kg、四国地域481kg －

【調査結果の概要】

- 1 令和6年産水稻の地域別の作付面積（子実用）は、中国地域で9万3,100ha、四国地域で4万2,700haとなった。うち主食用作付面積は、中国地域で9万400ha、四国地域で4万2,300haとなった。
- 2 地域別の10 a 当たり収量は、中国地域で512kg、四国地域で481kgとなった。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの地域別の作況指数は、中国地域、四国地域ともに101の「平年並み」となった。
- 3 地域別の収穫量（子実用）は、中国地域で47万6,900 t、四国地域で20万5,200 tとなった。うち収穫量（主食用）は、中国地域で46万3,000 t、四国地域で20万3,600 tとなった。

図1 地域別・県別10 a 当たり収量及び作況指数



- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積であり、主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である（24ページの【参考1】参照）。
- 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 作況指数は、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり収量の比率であり、県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 徳島県及び高知県の作況指数は早期栽培、普通栽培を合算したものである。

4 中国地域の作柄を県別に見ると、山口県は「やや良」、鳥取県、島根県、岡山県及び広島県は「平年並み」となった。

《中国地域各県の良否の要因》

◆やや良・・・山口県(作況指数103)

7月上旬から8月上旬の気温が平年を上回って推移したこと等により、1穂当たりもみ数が「多い」となったためである。

5 四国地域の作柄を県別に見ると、早期栽培では高知県が「やや良」、徳島県が「平年並み」となった。

普通栽培では、愛媛県は「やや良」、徳島県及び香川県は「平年並み」、高知県は「やや不良」となった。

《四国地域各県の良否の要因》

〔早期栽培〕

◆やや良・・・高知県(作況指数102)

7月上旬以降、気温及び日照時間ともにおおむね平年を上回ったことにより、登熟が「やや良」となったためである。

〔普通栽培〕

◆やや良・・・愛媛県(作況指数102)

8月上旬以降、気温及び日照時間ともにおおむね平年を上回ったことにより、登熟が「やや良」となったためである。

◆やや不良・・・高知県(作況指数97)

高温障害による不稔や整粒不足等により、収量基準未滿となる玄米が発生したためである。

◎ 累年データ

水稻の年次別推移（中国地域・四国地域）

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
中国地域 平成26年産	112,600	495	556,900	108,700	536,600	96
27	108,100	503	543,900	104,100	523,400	97
28	106,000	526	557,300	102,200	537,900	102
29	104,300	530	552,400	101,200	536,100	103
30	103,700	519	537,800	101,100	524,200	101
令和元	102,100	503	513,200	99,400	499,800	97
2	101,200	484	489,700	98,200	475,700	92
3	98,800	517	511,000	95,900	496,100	99
4	95,800	524	501,600	92,800	486,400	101
5	94,000	514	483,100	90,900	467,800	101
6	93,100	512	476,900	90,400	463,000	101
四国地域 平成26年産	55,300	463	256,200	54,500	253,000	96
27	52,100	466	242,800	51,700	241,000	96
28	50,900	492	250,500	50,500	248,700	102
29	49,900	486	242,400	49,500	241,000	101
30	49,300	473	233,400	49,000	232,000	98
令和元	48,300	457	220,700	47,800	218,500	94
2	47,400	470	222,800	46,900	219,900	96
3	45,900	482	221,400	45,400	219,900	101
4	44,600	497	221,600	44,000	218,400	103
5	43,100	482	207,700	42,700	205,500	101
6	42,700	481	205,200	42,300	203,600	101

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。
- 2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 4 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までは、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降は、県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- 5 注意書きについては、次ページ以降の累年統計表において同じ。

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合 45%）以上に相当するよう、ふるい目幅 1.70mm で選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている（25 ページ【参考 2】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別 10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）を示すと次のとおりである。

表 1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（中国地域・四国地域）

単位：%							
区 分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
中国地域 令和元年産	100.0	0.9	1.6	2.2	2.8	15.6	76.9
2	100.0	1.0	1.9	2.6	3.7	16.7	74.1
3	100.0	0.9	1.6	1.9	2.5	12.9	80.2
4	100.0	0.9	1.6	2.0	2.7	13.4	79.4
5	100.0	0.6	1.0	1.4	2.0	10.3	84.7
6	100.0	0.5	0.9	1.1	1.8	8.5	87.2
平 均 値	100.0	0.9	1.5	2.0	2.7	13.8	79.1
対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 0.6	△ 0.9	△ 0.9	△ 5.3	8.1
四国地域 令和元年産	100.0	1.3	2.2	3.0	3.9	19.4	70.2
2	100.0	1.4	2.4	3.1	3.9	18.9	70.3
3	100.0	1.1	1.7	2.1	2.8	14.8	77.5
4	100.0	1.2	1.9	2.6	3.6	16.6	74.1
5	100.0	0.8	1.4	1.8	2.6	11.9	81.5
6	100.0	0.8	1.1	1.5	2.4	11.6	82.6
平 均 値	100.0	1.2	1.9	2.5	3.4	16.3	74.7
対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 0.8	△ 1.0	△ 1.0	△ 4.7	7.9

注：1 ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である。

2 平均値は、直近 5 か年の重量割合の平均である。

表2 ふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（中国地域・四国地域）

区 分		単位	1.70mm 以上	1.75mm 以上	1.80mm 以上	1.85mm 以上	1.90mm 以上	2.00mm 以上
中国地域 令和元年産	10a 当たり収量	kg	503	498	490	479	465	387
	収穫量	t	513,200	508,600	500,400	489,100	474,700	394,700
2	10a 当たり収量	kg	484	479	470	457	439	359
	収穫量	t	489,700	484,800	475,500	462,800	444,600	362,900
3	10a 当たり収量	kg	517	512	504	494	481	415
	収穫量	t	511,000	506,400	498,200	488,500	475,700	409,800
4	10a 当たり収量	kg	524	519	511	500	486	416
	収穫量	t	501,600	497,100	489,100	479,000	465,500	398,300
5	10a 当たり収量	kg	514	511	506	499	488	435
	収穫量	t	483,100	480,200	475,400	468,600	458,900	409,200
6	10a 当たり収量	kg	512	509	505	499	490	446
	収穫量	t	476,900	474,500	470,200	465,000	456,400	415,900
	対前年比（収穫量）	%	99	99	99	99	99	102
四国地域 令和元年産	10a 当たり収量	kg	457	451	441	427	409	321
	収穫量	t	220,700	217,800	213,000	206,400	197,700	154,900
2	10a 当たり収量	kg	470	463	452	438	419	330
	収穫量	t	222,800	219,700	214,300	207,400	198,700	156,600
3	10a 当たり収量	kg	482	477	469	458	445	374
	収穫量	t	221,400	219,000	215,200	210,600	204,400	171,600
4	10a 当たり収量	kg	497	491	482	469	451	368
	収穫量	t	221,600	218,900	214,700	209,000	201,000	164,200
5	10a 当たり収量	kg	482	478	471	463	450	393
	収穫量	t	207,700	206,000	203,100	199,400	194,000	169,300
6	10a 当たり収量	kg	481	477	472	465	453	397
	収穫量	t	205,200	203,600	201,300	198,200	193,300	169,500
	対前年比（収穫量）	%	99	99	99	99	100	100

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、地域別の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別収穫量（子実用）とは、地域別の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

【調査結果（県別作柄概況）】

1 鳥取県

(1) 作付面積

作付面積（子実用）は1万1,800ha（前年産との差：△100ha）となった。
うち主食用作付面積は1万1,600ha（前年産との差：△100ha）となった。

(2) 作柄概況

5月下旬から6月上旬の気温及び日照時間が平年を下回って推移したことや、6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分けつが抑制され穂数は「少ない」となった。穂数が少ないことによる補償作用等により、1穂当たりもみ数は「やや多い」となったものの、全もみ数は「やや少ない」となった。全もみ数がやや少なかったことによる補償作用に加え、7月下旬から9月下旬にかけて気温及び日照時間が平年を上回って推移したため、登熟は「やや良」となった。

10a当たり収量は502kg（前年産との差：+21kg）、作柄表示地帯別では、東部で504kg（前年産との差：+26kg）、西部で501kg（同：+18kg）となった。

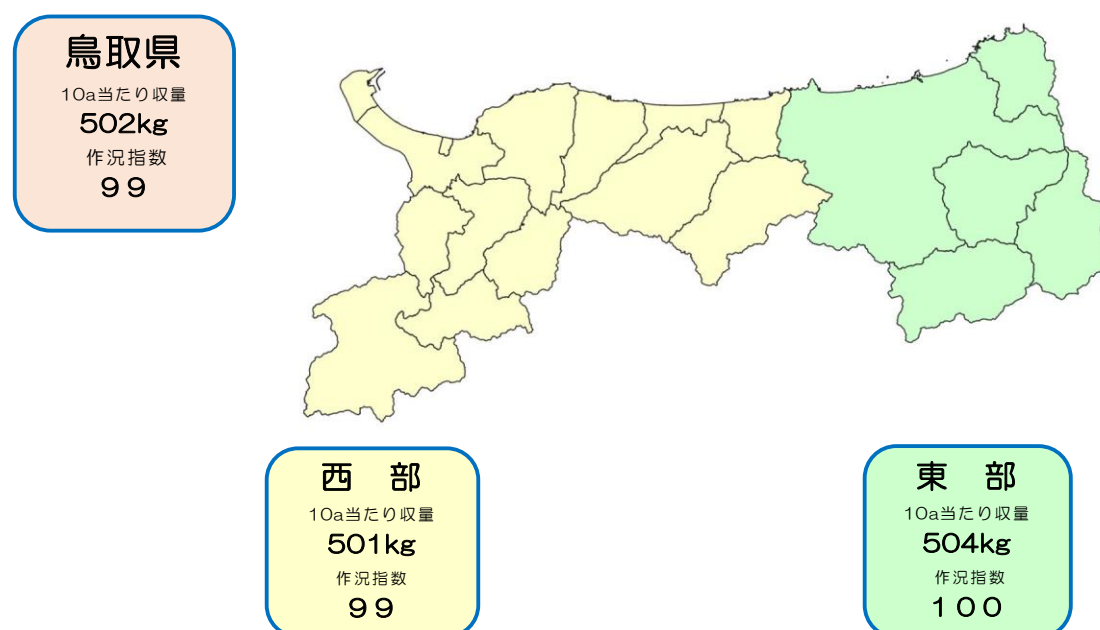
また、農家等が使用しているふるい目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は99の「平年並み」、作柄表示地帯別では、東部は100の「平年並み」、西部は99の「平年並み」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は、5万9,200t（前年産との差：+2,000t）となった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、5万8,200t（前年産との差：+1,900t）となった。

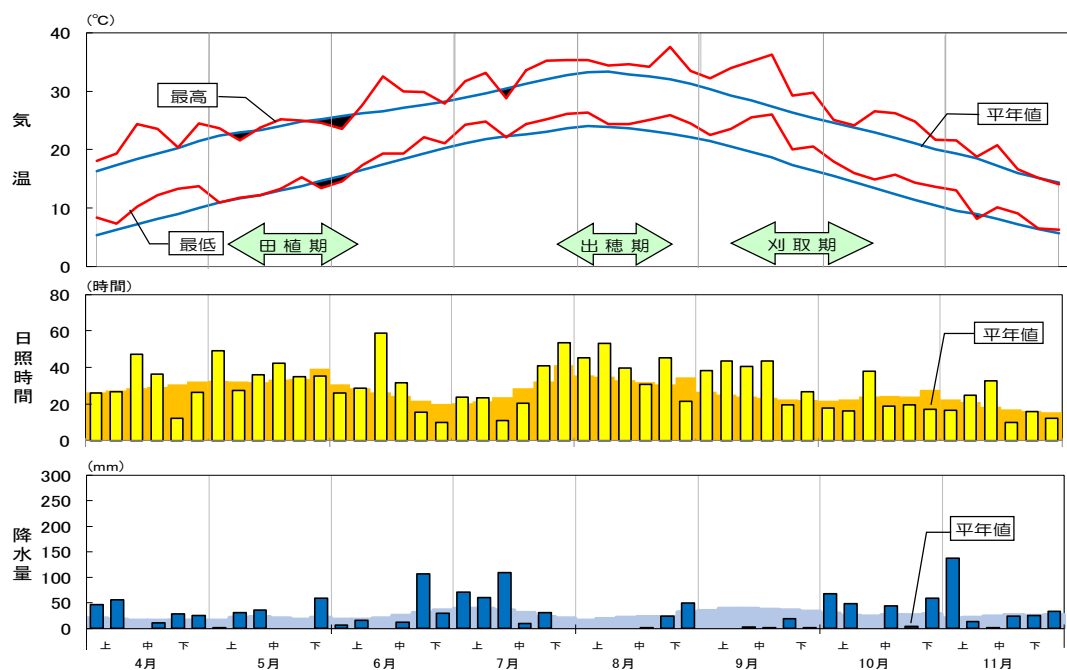
図2 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数



◎ 累年データ

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
鳥取県 平成27年産	12,900	512	66,000	12,400	63,500	99
28	12,700	522	66,300	12,500	65,300	102
29	12,600	520	65,500	12,400	64,500	101
30	12,800	498	63,700	12,700	63,200	97
令和元	12,700	514	65,300	12,600	64,800	100
2	12,900	512	66,000	12,800	65,500	100
3	12,600	505	63,600	12,400	62,600	98
4	12,100	514	62,200	12,000	61,700	100
5	11,900	481	57,200	11,700	56,300	95
6	11,800	502	59,200	11,600	58,200	99

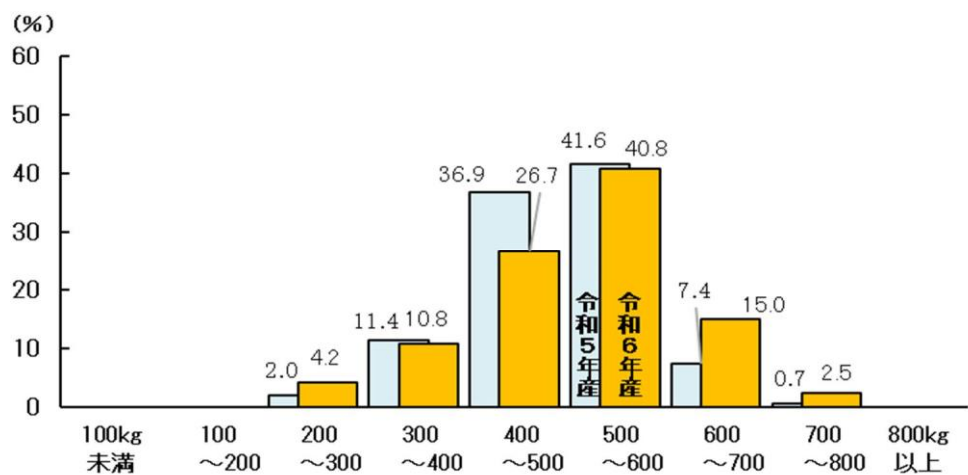
◎ 半旬別気象図（観測地点：鳥取市）



資料：気象庁『アメダスデータ』（以下同じ。）

注：耕種期日は 2019 年から 2023 年調査結果の 5 か年平均値（以下同じ。）

◎ 令和 6 年産水稻の作況標本筆の 10 a 当たり玄米重の分布状況



2 島根県

(1) 作付面積

作付面積（子実用）は1万5,900ha（前年産との差：△200ha）となった。
うち主食用作付面積は1万5,700ha（前年産との差：△200ha）となった。

(2) 作柄概況

6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分げつが抑制され穂数は「やや少ない」となった。穂数がやや少ないことによる補償作用等により、1穂当たりもみ数は「やや多い」となり、全もみ数は「平年並み」となった。7月下旬から9月下旬にかけて気温及び日照時間が平年を上回って推移したため、登熟は「やや良」となった。

10a 当たり収量は505kg（前年産との差：△10kg）、作柄表示地帯別では、出雲で514kg（前年産との差：△11kg）、石見で484kg（同：△6kg）となった。

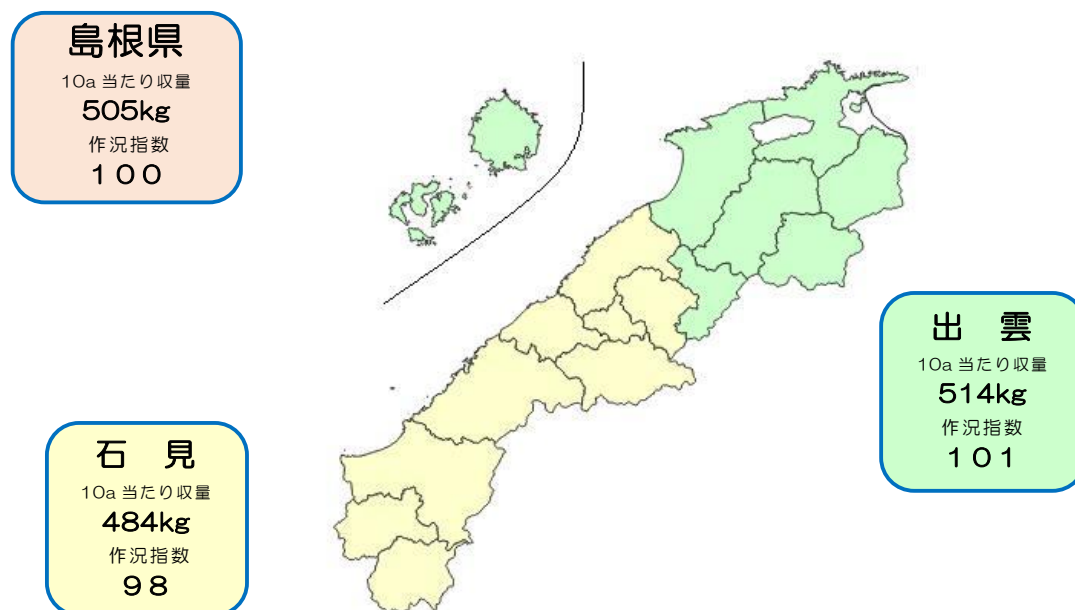
また、農家等が使用しているふるい目幅（1.90mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は100の「平年並み」、作柄表示地帯別では、出雲は101の「平年並み」、石見は98の「やや不良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は、8万300t（前年産との差：△2,600t）となった。

また、主食用作付面積に10a 当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、7万9,300t（前年産との差：△2,600t）となった。

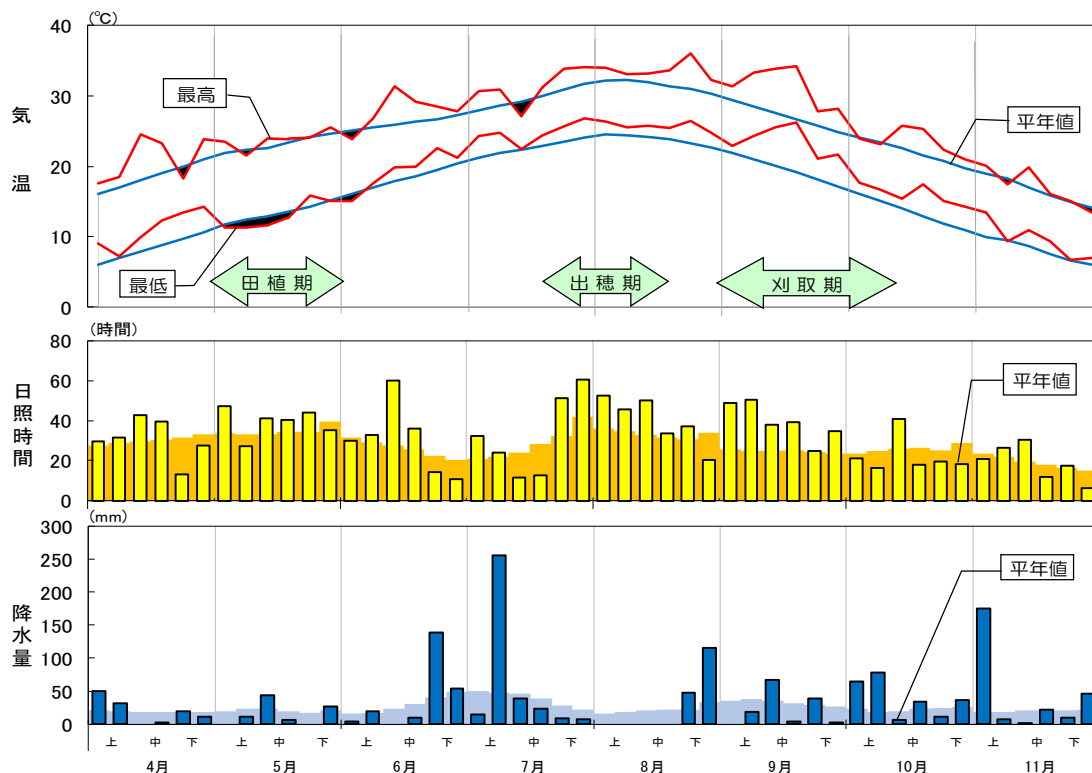
図3 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数



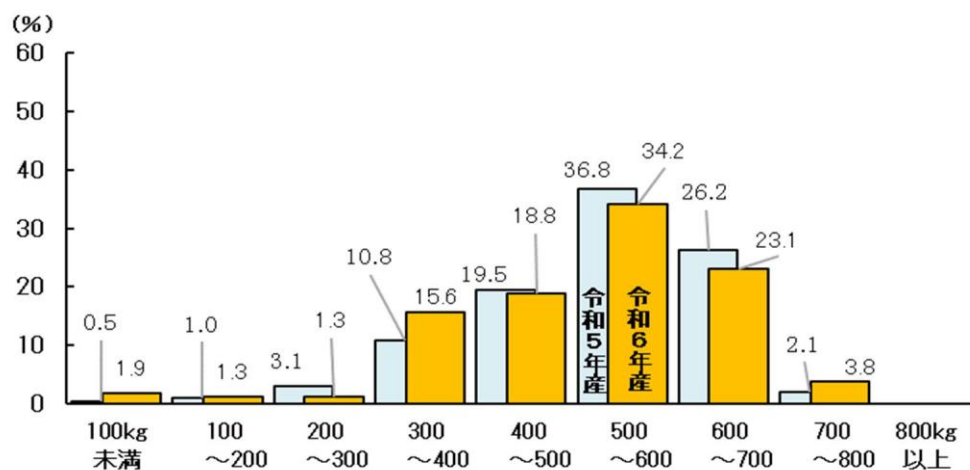
◎ 累年データ

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
島根県 平成27年産	17,900	503	90,000	17,500	88,000	98
28	17,700	528	93,500	17,300	91,300	104
29	17,500	519	90,800	17,200	89,300	102
30	17,500	524	91,700	17,200	90,100	103
令和元	17,300	506	87,500	16,900	85,500	99
2	17,100	511	87,400	16,800	85,800	99
3	16,800	521	87,500	16,500	86,000	100
4	16,400	519	85,100	16,100	83,600	101
5	16,100	515	82,900	15,900	81,900	101
6	15,900	505	80,300	15,700	79,300	100

◎ 半旬別気象図（観測地点：松江市）



◎ 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況



3 岡山県

(1) 作付面積

作付面積（子実用）は2万8,000ha（前年産との差：+200ha）となった。
うち主食用作付面積は2万7,200ha（前年産との差：+300ha）となった。

(2) 作柄概況

5月下旬から6月上旬の気温が平年を下回って推移したことや、6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分げつが抑制され穂数は「少ない」となった。7月上旬から下旬の気温がおおむね平年を上回って推移したことや、穂数が少ないことによる補償作用により、1穂当たりもみ数は「多い」となり、全もみ数は「平年並み」となった。8月上旬から9月中旬にかけて気温及び日照時間が平年を上回って推移したため、登熟は「やや良」となった。

10a当たり収量は510kg（前年産との差：△4kg）、作柄表示地帯別では、南部で525kg（前年産との差：△5kg）、中北部で482kg（同：△5kg）となった。

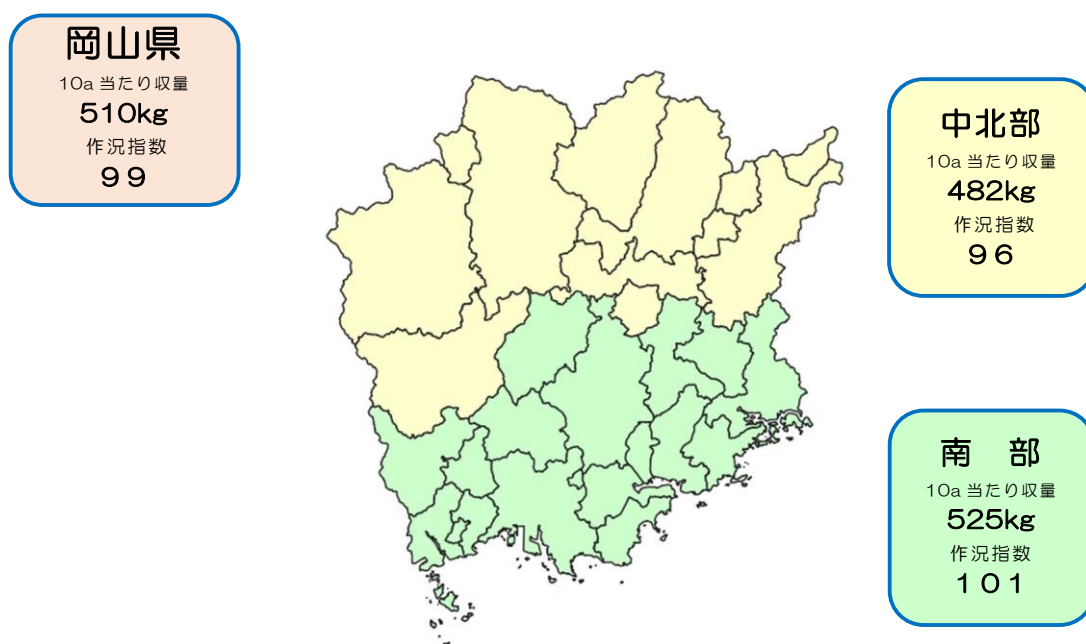
また、農家等が使用しているふるい目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は99の「平年並み」、作柄表示地帯別では、南部は101の「平年並み」、中北部は96の「やや不良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は、14万2,800t（前年産との差：△100t）となった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、13万8,700t（前年産との差：+400t）となった。

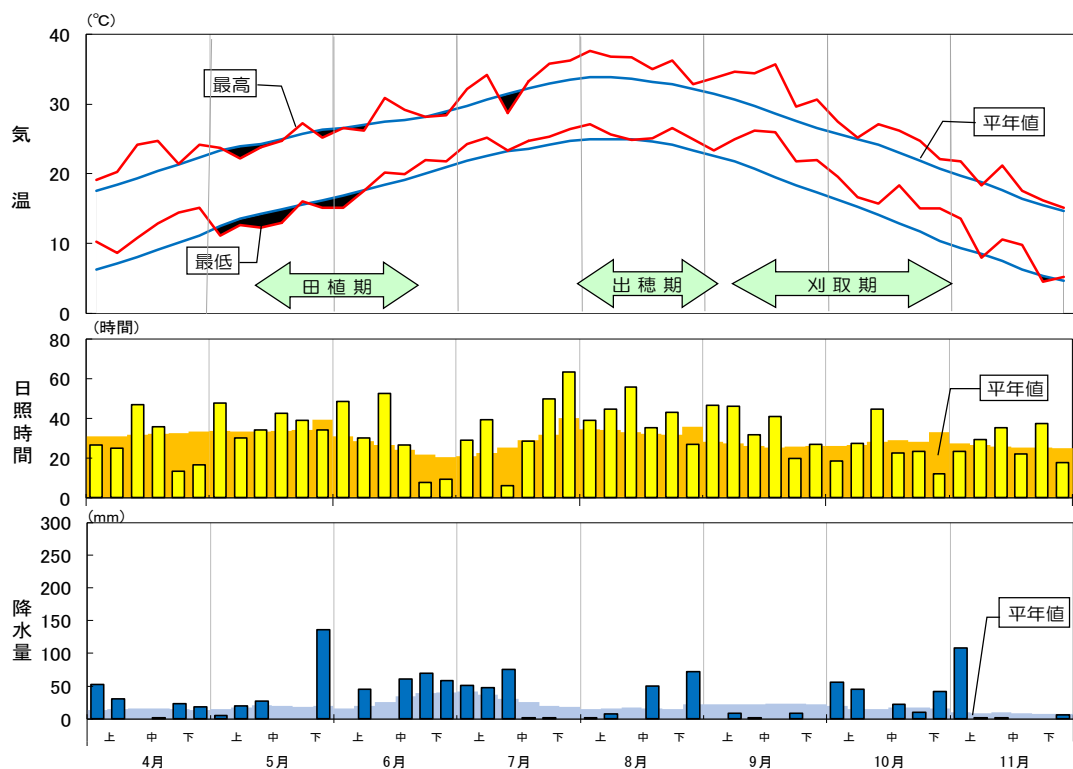
図4 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数



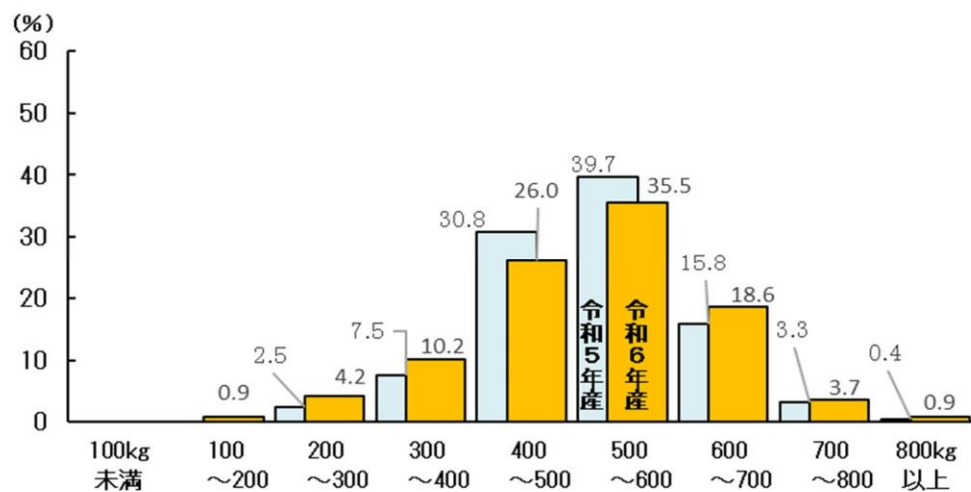
◎ 累年データ

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
岡山県 平成27年産	31,000	505	156,600	29,600	149,500	96
28	30,400	533	162,000	29,200	155,600	101
29	30,100	544	163,700	29,100	158,300	103
30	30,200	517	156,100	29,400	152,000	98
令和元	30,100	517	155,600	29,300	151,500	98
2	29,800	505	150,500	28,900	145,900	95
3	28,800	524	150,900	27,900	146,200	99
4	28,100	524	147,200	27,100	142,000	99
5	27,800	514	142,900	26,900	138,300	99
6	28,000	510	142,800	27,200	138,700	99

◎ 半旬別気象図（観測地点：岡山市）



◎ 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況



4 広島県

(1) 作付面積

作付面積（子実用）は2万600ha（前年産との差：△500ha）となった。
うち主食用作付面積は2万100ha（前年産との差：△400ha）となった。

(2) 作柄概況

6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分げつが抑制され穂数は「やや少ない」となった。穂数がやや少ないことによる補償作用等により、1穂当たりもみ数は「やや多い」となり、全もみ数は「平年並み」となった。7月下旬から9月下旬にかけて気温及び日照時間が平年を上回って推移したため、登熟は「やや良」となった。

10a 当たり収量は526kg（前年産との差：△9kg）、作柄表示地帯別では、南部で546kg（前年産との差：+13kg）、北部で513kg（同：△23kg）となった。

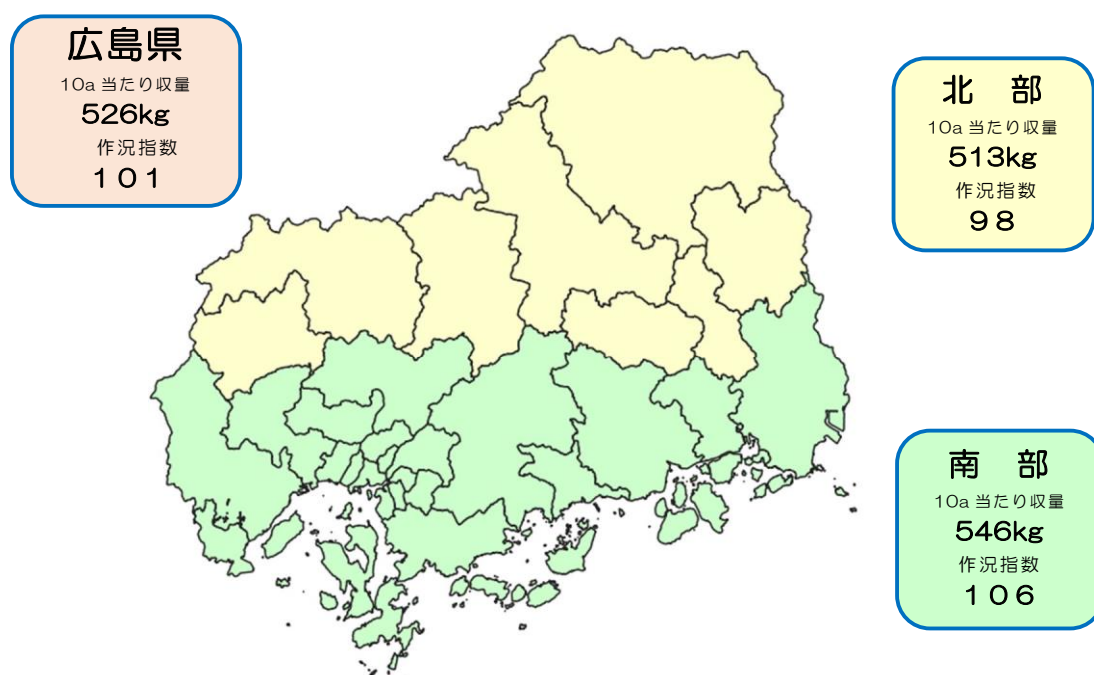
また、農家等が使用しているふるい目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は101の「平年並み」、作柄表示地帯別では、南部は106の「良」、北部は98の「やや不良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は、10万8,400t（前年産との差：△4,500t）となった。

また、主食用作付面積に10a 当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、10万5,700t（前年産との差：△4,000t）となった。

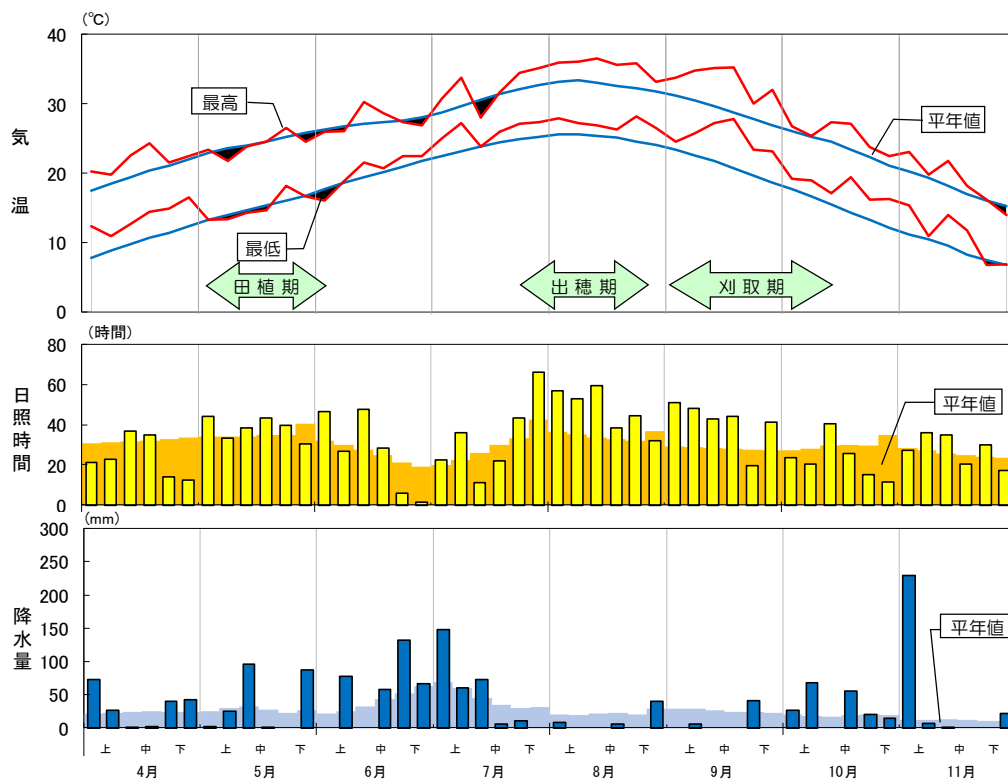
図5 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数



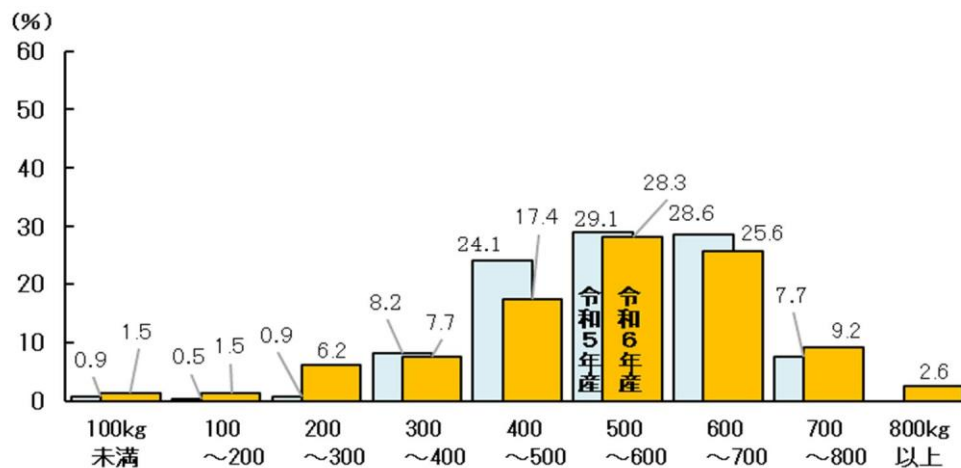
◎ 累年データ

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
広島県 平成27年産	24,700	507	125,200	24,000	121,700	96
28	24,100	531	128,000	23,400	124,300	102
29	23,700	534	126,600	23,100	123,400	102
30	23,400	525	122,900	22,900	120,200	101
令和元	22,700	499	113,300	22,200	110,800	95
2	22,600	499	112,800	22,000	109,800	94
3	22,200	522	115,900	21,700	113,300	99
4	21,600	530	114,500	21,100	111,800	101
5	21,100	535	112,900	20,500	109,700	103
6	20,600	526	108,400	20,100	105,700	101

◎ 半旬別気象図（観測地点：広島市）



◎ 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況



5 山口県

(1) 作付面積

作付面積（子実用）は1万6,800ha（前年産との差：△300ha）となった。
うち主食用作付面積は1万5,800ha（前年産との差：△200ha）となった。

(2) 作柄概況

6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分けつが抑制され穂数は「やや少ない」となった。7月上旬から8月上旬の気温がおおむね平年を上回って推移したことや、穂数がやや少ないことによる補償作用により、1穂当たりもみ数は「多い」となり、全もみ数は「やや多い」となった。8月中旬から9月下旬にかけて気温及び日照時間が平年を上回って推移したものの、全もみ数がやや多いことによる相反作用もあり、登熟は「平年並み」となった。

10a当たり収量は513kg（前年産との差：+3kg）、作柄表示地帯別では、東部で486kg（前年産との差：+7kg）、西部で519kg（同：△1kg）、長北で516kg（同：+8kg）となった。

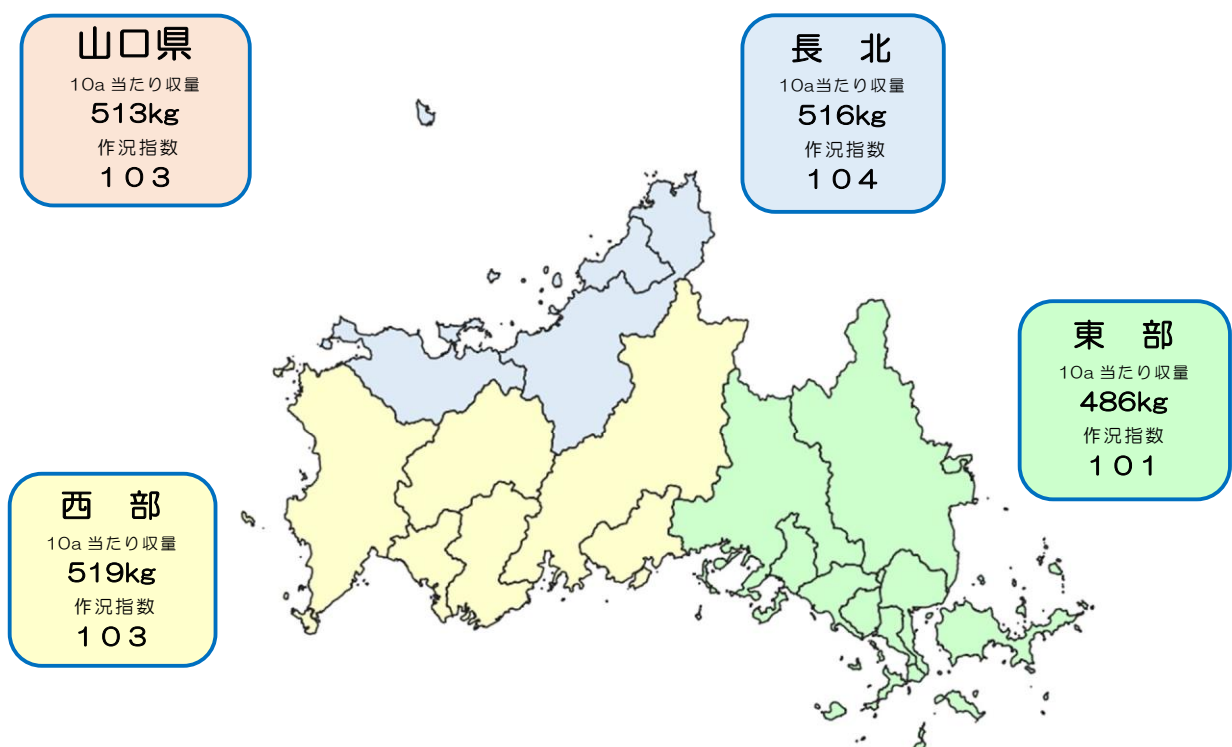
また、農家等が使用しているふるい目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は103の「やや良」、作柄表示地帯別では、東部は101の「平年並み」、西部は103の「やや良」、長北は104の「やや良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は、8万6,200t（前年産との差：△1,000t）となった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、8万1,100t（前年産との差：△500t）となった。

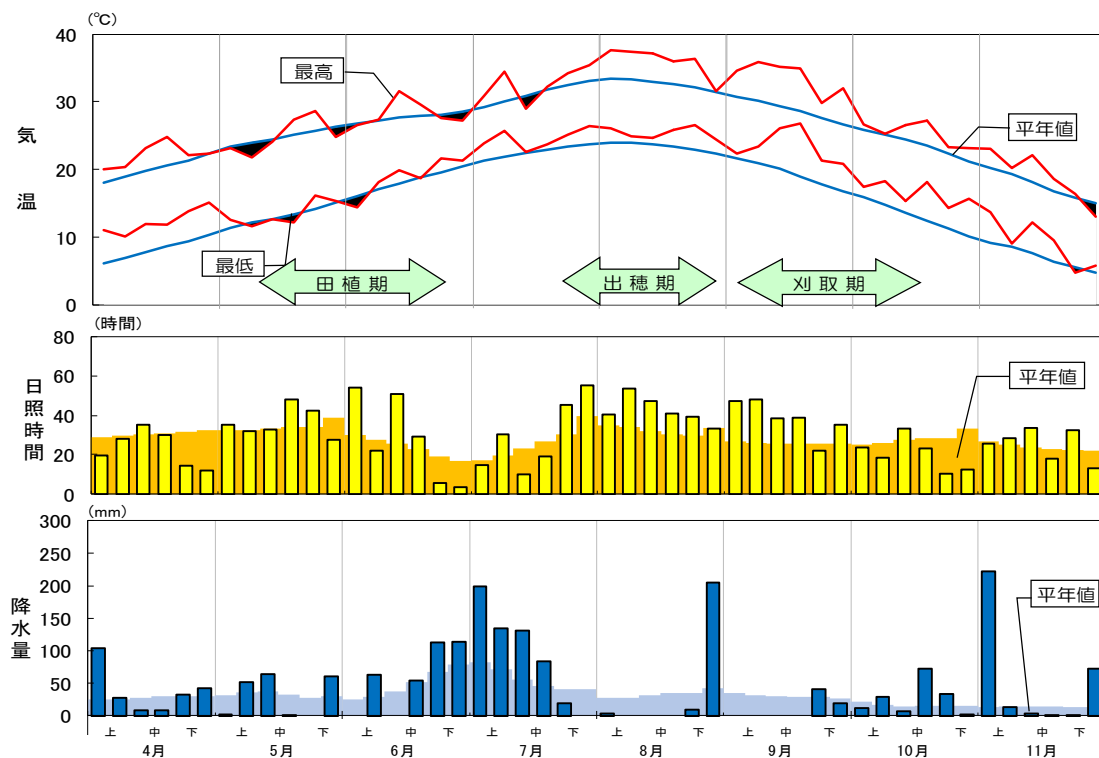
図6 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数



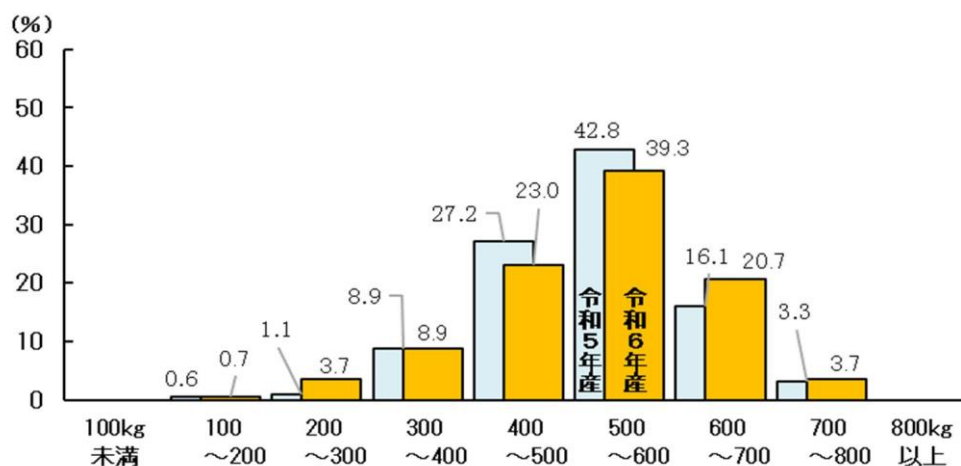
◎ 累年データ

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
山口県 平成27年産	21,600	491	106,100	20,500	100,700	97
28	21,000	512	107,500	19,800	101,400	102
29	20,300	521	105,800	19,300	100,600	103
30	19,800	522	103,400	18,900	98,700	104
令和元	19,300	474	91,500	18,400	87,200	94
2	18,900	386	73,000	17,800	68,700	73
3	18,400	506	93,100	17,400	88,000	101
4	17,600	526	92,600	16,600	87,300	105
5	17,100	510	87,200	16,000	81,600	103
6	16,800	513	86,200	15,800	81,100	103

◎ 半旬別気象図（観測地点：山口市）



◎ 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況



6 徳島県

(1) 作付面積

作付面積（子実用）は9,890ha（前年産との差：+140ha）となった。
うち主食用作付面積は9,790ha（前年産との差：+310ha）となった。

(2) 作柄概況

徳島県の10a当たり収量は470kg（前年産との差：+1kg）、作況指数は100の「平年並み」となった。

作柄表示地帯別では、10a当たり収量は北部で476kg（前年産との差：△3kg）、南部で453kg（同：+12kg）となった。また、作況指数は北部で100の「平年並み」、南部で99の「平年並み」となった。

【早期栽培】

4月下旬の日照時間が平年を下回ったことや、4月下旬から5月中旬の気温が平年を下回って推移したことにより、分げつが抑制され穂数は「少ない」となった。6月上旬以降おおむね気温が平年を上回ったことや、穂数が少ないことによる補償作用により、1穂当たりもみ数は「やや多い」となったものの、全もみ数は「少ない」となった。全もみ数が少なかったことによる補償作用に加え、7月下旬以降、気温及び日照時間が平年を上回って推移したため、登熟は「やや良」となった。以上の結果、10a当たり収量は454kg（前年産との差：+4kg）となった。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は99の「平年並み」となった。

【普通栽培】

5月中旬の気温や6月下旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分げつが抑制され穂数は「やや少ない」となった。6月下旬から7月上旬の気温がおおむね平年を上回って推移したものの、6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったため、1穂当たりもみ数は「平年並み」となり、全もみ数は「平年並み」となった。7月下旬から9月中旬にかけて気温及び日照時間が平年を上回って推移したため、登熟は「やや良」となった。

10a当たり収量は480kg（前年産との差：△1kg）となった。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は101の「平年並み」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は、4万6,500t（前年産との差：+800t）となった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、4万6,000t（前年産との差：+1,500t）となった。

図7 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数

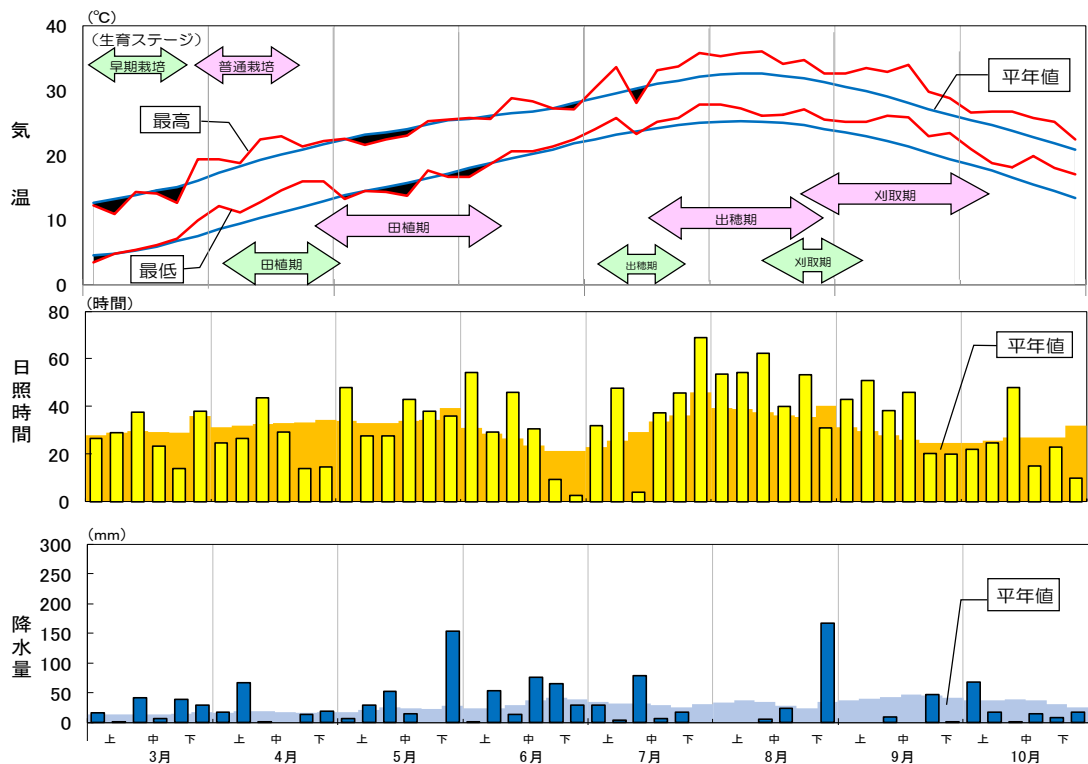


◎ 累年データ

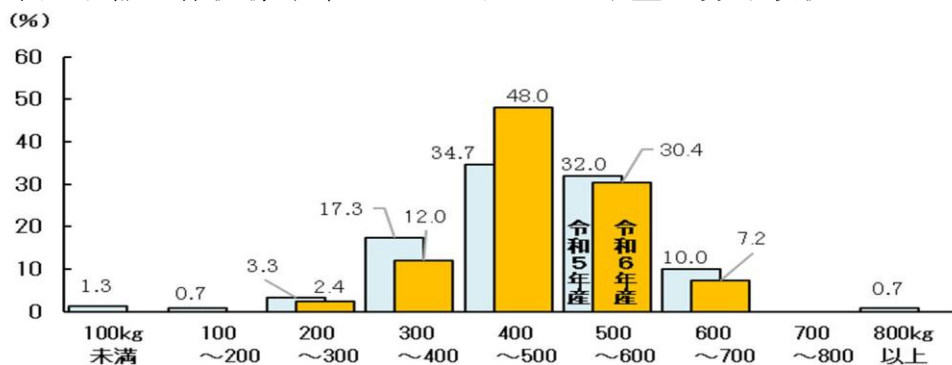
区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 穫 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
徳島県 令和元年産	11,300	464	52,400	11,000	51,000	98
2	11,000	476	52,400	10,700	50,900	100
3	10,300	465	47,900	9,980	46,400	98
4	9,910	480	47,600	9,640	46,300	102
5	9,750	469	45,700	9,480	44,500	99
6	9,890	470	46,500	9,790	46,000	100
早期栽培 令和元	4,340	456	19,800	...	...	98
2	4,260	453	19,300	...	...	98
3	3,930	455	17,900	...	...	98
4	3,780	473	17,900	...	...	102
5	3,750	450	16,900	...	...	97
6	3,810	454	17,300	...	...	99
普通栽培 令和元	6,940	470	32,600	...	...	98
2	6,710	492	33,000	...	...	102
3	6,400	472	30,200	...	...	98
4	6,120	485	29,700	...	...	101
5	6,010	481	28,900	...	...	101
6	6,070	480	29,100	...	...	101

注：「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。（以下同じ。）

◎ 半月別気象図（観測地点：徳島市）



◎ 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況



7 香川県

(1) 作付面積

作付面積（子実用）は 9,820ha（前年産との差：△380ha） となった。
うち主食用作付面積は 9,770ha（前年産との差：△330ha） となった。

(2) 作柄概況

6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分けつが抑制され穂数は「やや少ない」となった。7月上旬及び7月下旬の気温及び日照時間が平年を上回ったことにより、1穂当たりもみ数は「平年並み」となり、全もみ数は「平年並み」となった。

8月上旬から9月中旬にかけて気温及び日照時間が平年を上回って推移したものの、登熟は「平年並み」となった。

10a 当たり収量は491kg（前年産との差：△5 kg）となった。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は100の「平年並み」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は、4万8,200 t（前年産との差：△2,400t）となった。

また、主食用作付面積に10a 当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、4万8,000 t（前年産との差：△2,100t）となった。

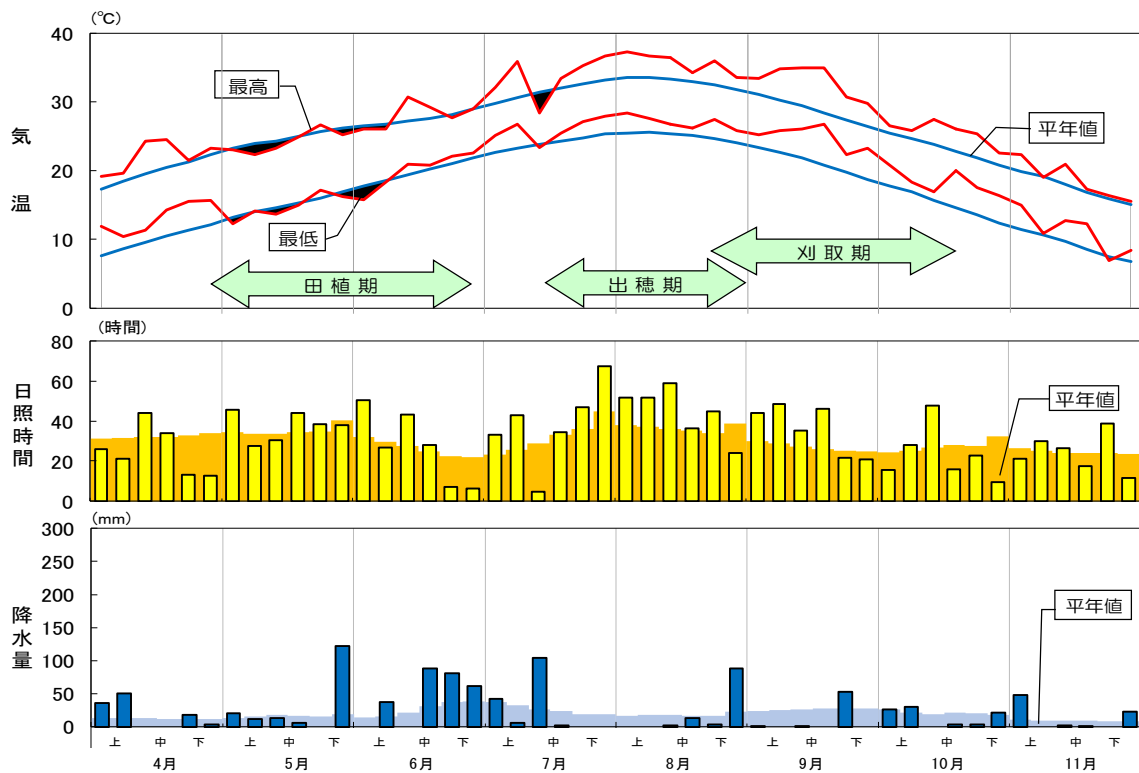
図8 10a 当たり収量及び作況指数



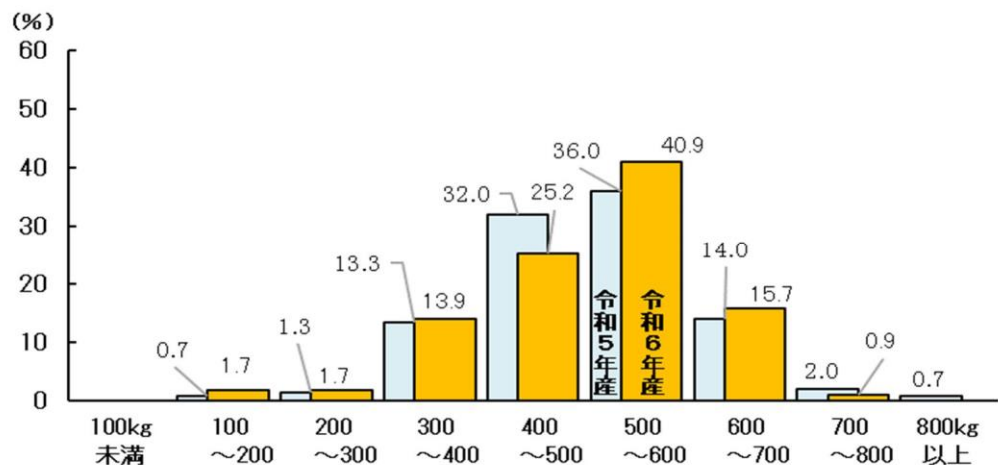
◎ 累年データ

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
香川県 平成27年産	13,600	470	63,900	13,500	63,500	94
28	13,200	508	67,100	13,200	67,100	102
29	12,800	484	62,000	12,800	62,000	98
30	12,500	479	59,900	12,500	59,900	96
令和元	12,000	471	56,500	12,000	56,500	95
2	11,700	496	58,000	11,600	57,500	100
3	11,300	501	56,600	11,300	56,600	101
4	10,900	511	55,700	10,800	55,200	103
5	10,200	496	50,600	10,100	50,100	101
6	9,820	491	48,200	9,770	48,000	100

◎ 半月別気象図（観測地点：高松市）



◎ 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況



8 愛媛県

(1) 作付面積

作付面積（子実用）は1万2,700ha（前年産との差：△100ha）となった。
うち主食用作付面積は1万2,700ha（前年産との差：△100ha）となった。

(2) 作柄概況

6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分げつが抑制され穂数は「やや少ない」となった。7月上旬及び7月下旬の気温及び日照時間が平年を上回ったことや、穂数がやや少ないことによる補償作用により、1穂当たりもみ数は「やや多い」となり、全もみ数が「平年並み」となった。8月上旬から9月下旬にかけて気温及び日照時間が平年を上回って推移したため、登熟は「やや良」となった。

10a当たり収量は502kg（前年産との差：△3kg）、作柄表示地帯別では、東予で499kg（前年産との差：△8kg）、中予で530kg（同：＋8kg）、南予で478kg（同：△6kg）となった。

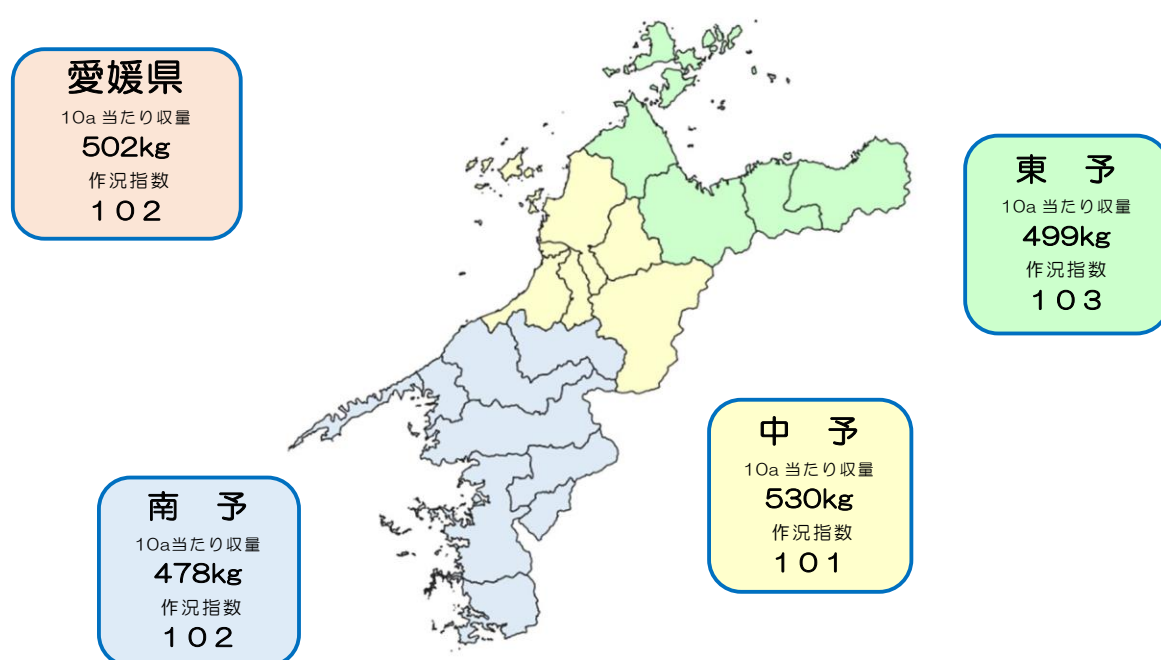
また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102の「やや良」、作柄表示地帯別では、東予は103の「やや良」、中予は101の「平年並み」、南予は102の「やや良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は、6万3,800t（前年産との差：△800t）となった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、6万3,800t（前年産との差：△800t）となった。

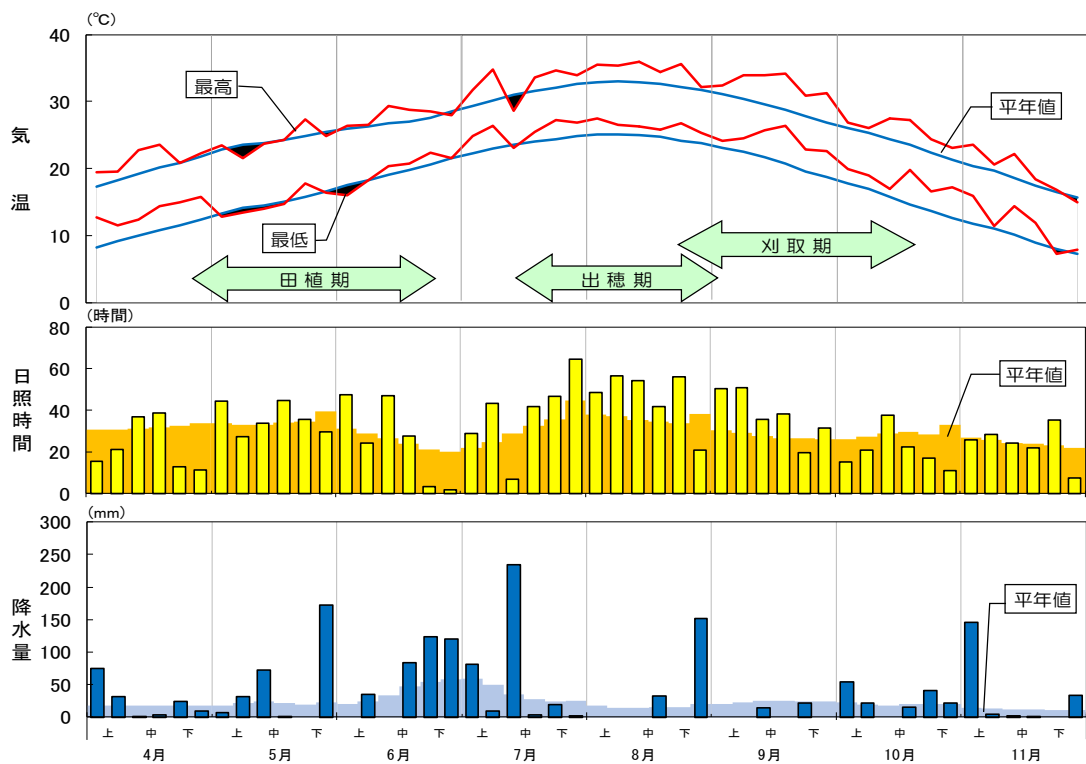
図9 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数



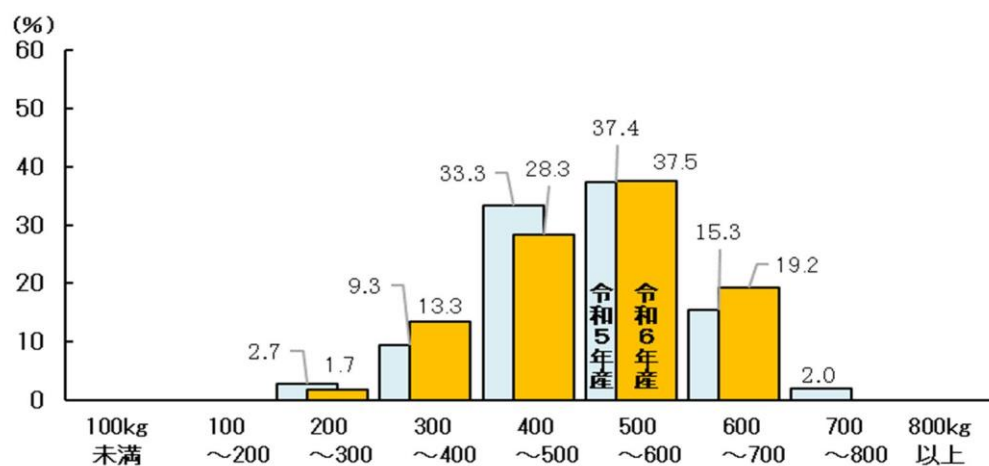
◎ 累年データ

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
愛媛県 平成27年産	14,600	488	71,200	14,600	71,200	98
28	14,200	508	72,100	14,200	72,100	102
29	13,900	508	70,600	13,900	70,600	102
30	13,900	498	69,200	13,900	69,200	100
令和元	13,600	470	63,900	13,500	63,500	94
2	13,400	474	63,500	13,300	63,000	91
3	13,200	510	67,300	13,200	67,300	104
4	13,100	524	68,600	13,000	68,100	104
5	12,800	505	64,600	12,800	64,600	103
6	12,700	502	63,800	12,700	63,800	102

◎ 半旬別気象図（観測地点：松山市）



◎ 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況



9 高知県

(1) 作付面積

作付面積（子実用）は1万300ha（前年産並み）となった。

うち主食用作付面積は1万100ha（前年産との差：△100ha）となった。

(2) 作柄概況

高知県の10a当たり収量は453kg（前年産との差：△1kg）、作況指数は100の「平年並み」となった。

作柄表示地帯別では、10a当たり収量は中東部で479kg（前年産との差：+4kg）、西部で411kg（同：△10kg）となった。また、作況指数は中東部で101の「平年並み」、西部で97の「やや不良」となった。

【早期栽培】

気温は4月中旬から下旬が平年より高く、日照時間は4月下旬が平年を下回ったが5月上旬から中旬は平年を上回り、穂数は「平年並み」となった。6月中旬から下旬にかけても気温は平年並みに推移したことから1穂当たりもみ数は「平年並み」となり、全もみ数は「平年並み」となった。7月上旬以降、気温及び日照時間がおおむね平年を上回って推移したため、登熟は「やや良」となった。以上の結果、10a当たり収量は487kg（前年産との差：+2kg）となった。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102の「やや良」となった。

【普通栽培】

6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分げつが抑制され穂数は「少ない」となった。7月下旬以降が気温及び日照時間が平年を上回って推移したことや、穂数が少ないことによる補償作用により、1穂当たりもみ数は「多い」となったものの、全もみ数は「やや少ない」となった。8月下旬の台風第10号の影響による大雨等があったものの、9月上旬から中旬にかけて気温及び日照時間が平年を上回って推移したため、登熟は「平年並み」となった。10a当たり収量は409kg（前年産との差：△6kg）となった。

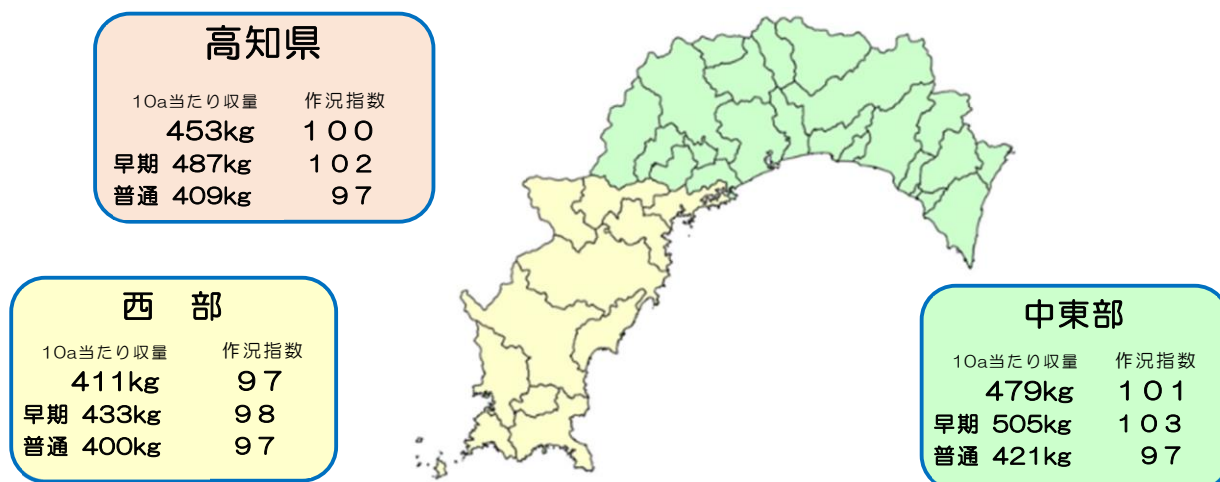
また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は97の「やや不良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は、4万6,700t（前年産との差：△100t）となった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、4万5,800t（前年産との差：△500t）となった。

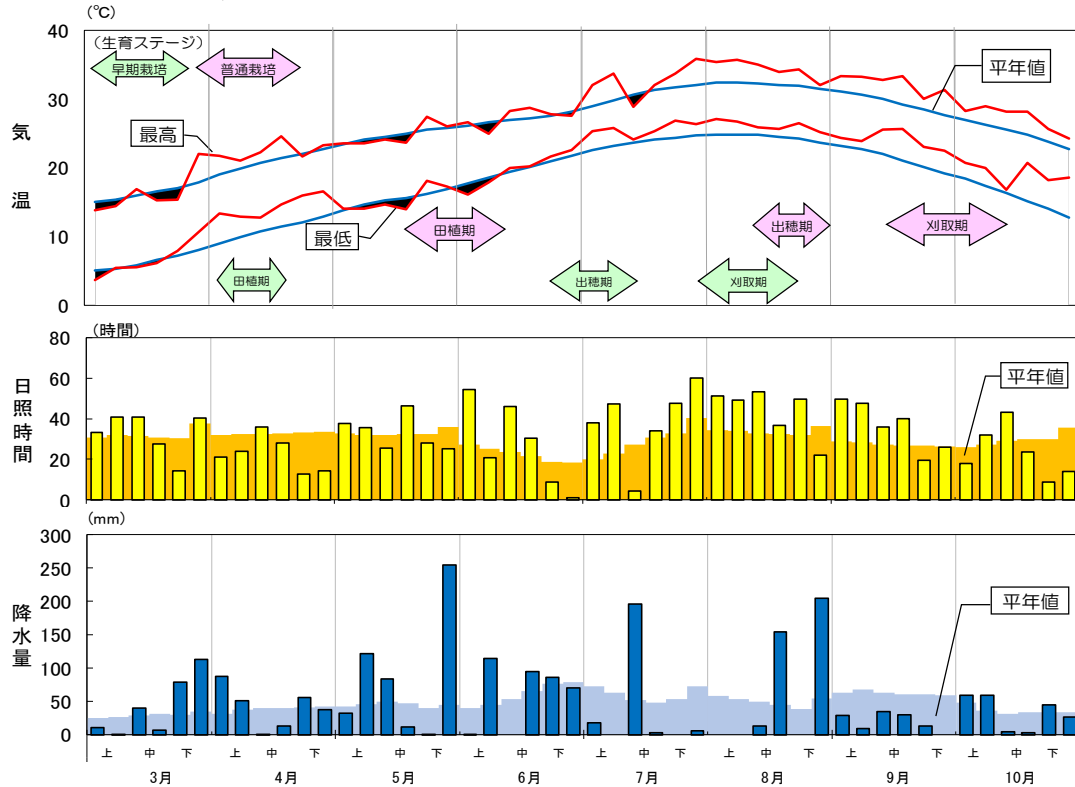
図 10 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数



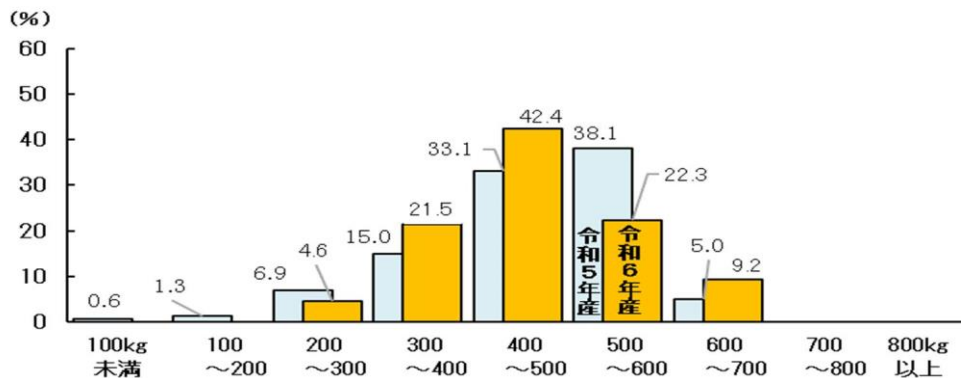
◎ 累年データ

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
高知県 令和元年産	11,400	420	47,900	11,300	47,500	91
2	11,300	433	48,900	11,200	48,500	93
3	11,000	451	49,600	11,000	49,600	98
4	10,800	460	49,700	10,600	48,800	100
5	10,300	454	46,800	10,200	46,300	100
6	10,300	453	46,700	10,100	45,800	100
早期栽培 令和元	6,440	455	29,300	...	...	95
2	6,380	454	29,000	...	...	94
3	6,190	475	29,400	...	...	98
4	6,010	488	29,300	...	...	101
5	5,770	485	28,000	...	...	101
6	5,790	487	28,200	...	...	102
普通栽培 令和元	4,980	375	18,700	...	...	87
2	4,950	407	20,100	...	...	93
3	4,850	420	20,400	...	...	98
4	4,750	425	20,200	...	...	100
5	4,550	415	18,900	...	...	99
6	4,480	409	18,300	...	...	97

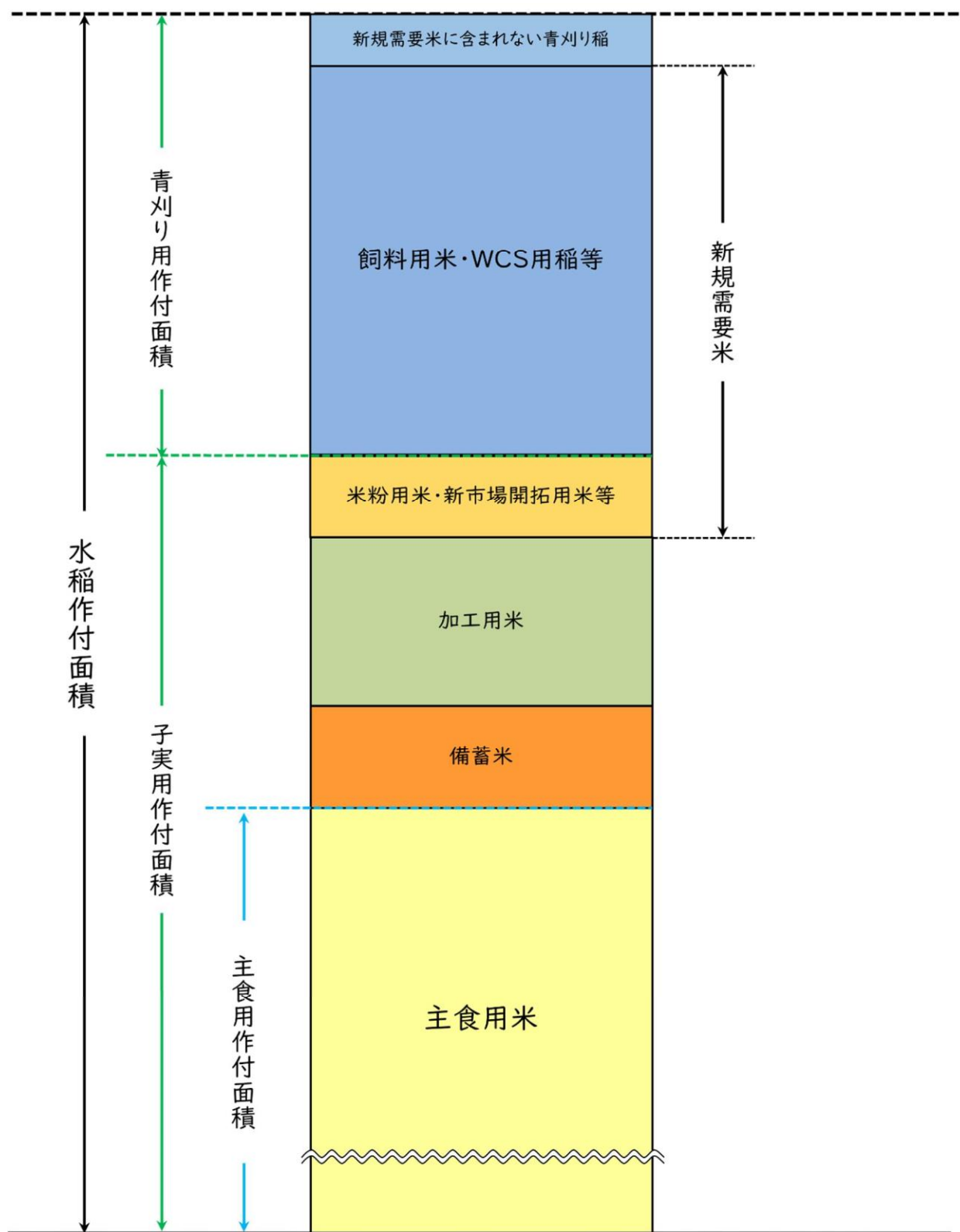
◎ 半月別気象図（観測地点：高知市）



◎ 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況

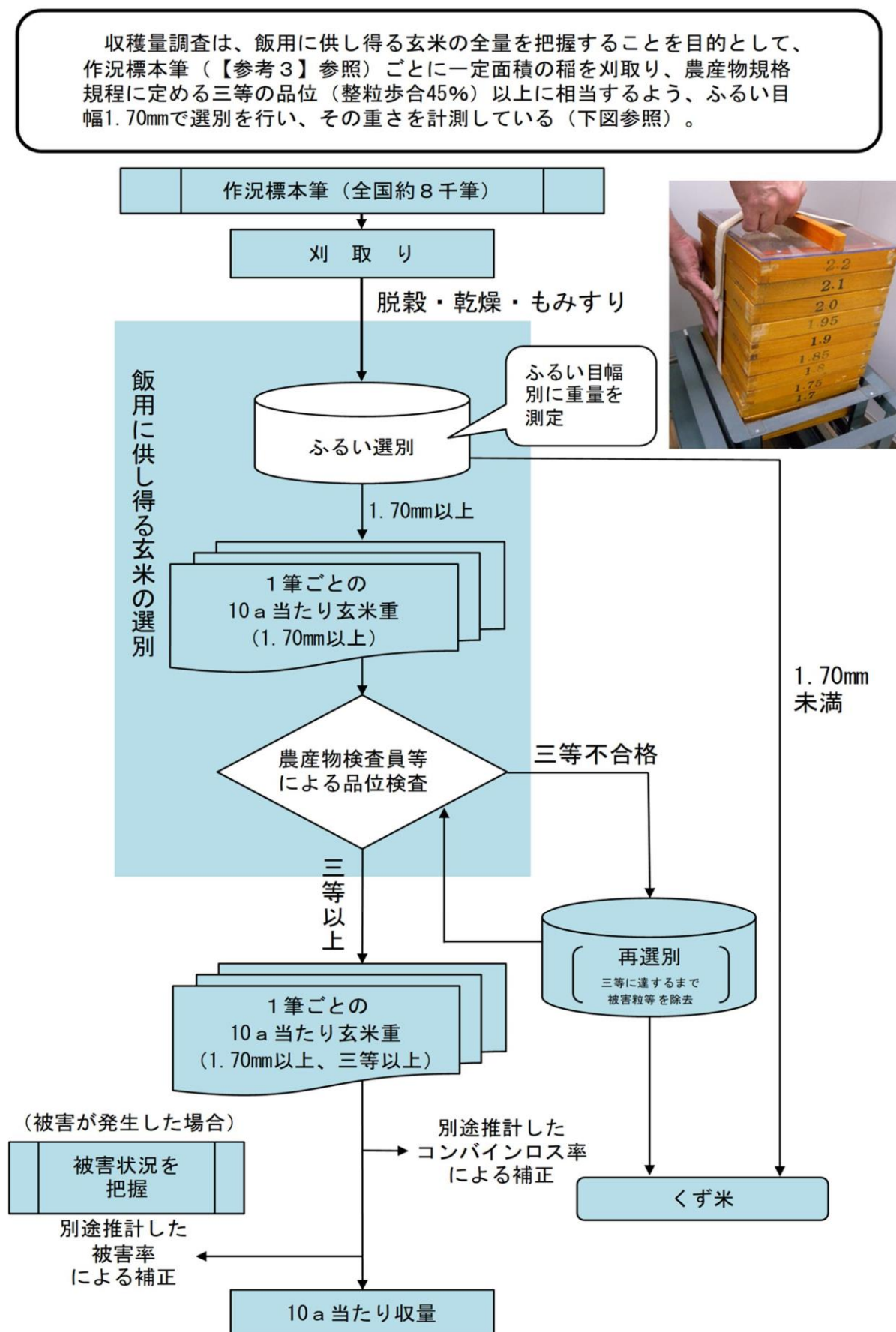


水稻作付面積の概念図



【参考 2】

収穫量調査の流れ

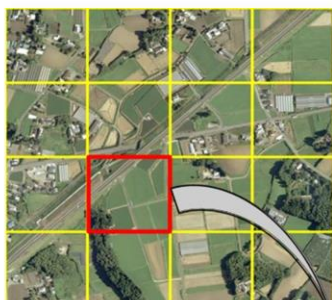


【参考 3】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場^{ふで}を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約8千筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



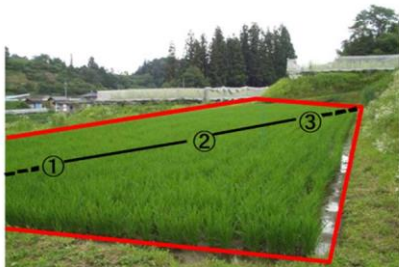
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約8千筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【統計表】

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files/data?sinfid=000040188610&ext=xls>

【調査の概要】

・面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

（補足）

調査対象数、作況指数の算出に用いるふり目幅、各県の作柄表示地帯に関する情報は上記の【統計表】の末尾に掲載しています。

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 本資料は中国四国農政局ホームページ「統計情報」の次のURLからご覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/chushi/info/index.html>

- ・ 詳細な数値は、農林水産省ホームページに掲載（令和7年2月予定）します。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予防事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

各都道府県の生育状況等：米ネット（公益社団法人米穀安定供給確保支援機構）>
水稲の生育状況・技術情報リンク集

<https://www.komenet.jp/linkshuu/suitolink/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

中国四国農政局 統計部 生産流通消費統計課

電話：086-224-4511(代表) 内線 2744、2741、2740

時間外直通電話：086-222-4450

◎農林水産統計全般について

中国四国農政局 統計部 統計企画課

電話：086-224-4511(代表) 内線 2721、2727

時間外直通電話：086-224-9426



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



5年に1度の一斉調査

2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

調査期間

令和6年12月中旬～令和7年2月末 農林業経営体調査

令和7年1月中旬～令和7年2月末 農山村地域調査（市区町村調査）

令和7年10月上旬～令和7年12月末 農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



農林業センサス

農林業センサス 2025

